米-	子工業高等	等專門学校	開講年度	平成30年度 (2	018年度)	授業	科目	機械工学セミナー
科目基	礎情報		•		-			
科目番号	1	0021			科目区分 専門 / 必修			
授業形態	ŧ	講義			単位の種別と単位数 履修単位:			1
開設学科		機械工学科	¥		対象学年			
開設期		通年			週時間数	1		
教科書/	 教材			-				
旦当教員	[松本 至,阿	部 耕三,永井 宏一	郎,松本 大,瀧本 慎也	1,生田 真也,坂東	直樹,山﨑	翠,松田	真二
到達目		,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		_,,_,,_,		, ,	
(1) 今後 (2) 卒業 (3) 今後	の学生生活 後の進路を の学生生活	を送る上での兇 より具体的にネ	く3年次より、専門 位学目標をより明確 持えることができる けるモティベーショ	雀なもの、具体的なも S。	戦と実社会におけ 5のとできる。	ける科学技術	がの役割を	を認識させる。具体的には
<u>ルーノ</u>	リック		7m+0+6++70++	1	I#1445 1			
			理想的な到達レ		標準的な到達レ			未到達レベルの目安
				を送る上での勉学 なもの、具体的な	今後の学生生活 目標をより明確 ものとある程度	なもの、具		今後の学生生活を送る上での勉学 目標をより明確なもの、具体的な ものとできない。
				より具体的に考え。	卒業後の進路を ることがある程	度できる。		卒業後の進路をより具体的に考えることができない。
				の送り方に対する ンを高めることが	今後の学生生活 モティベーショ ある程度できる	ンを高める		今後の学生生活の送り方に対する モティベーションを高めることが できない。
 学科の	到達日標	 項目との関(•		<u> </u>	<u> </u>		100 0.00
			<u>~</u>					
<u>, </u>	.,		<u> </u>					
受業の進	め方・方法	各講師に。 と。定期記 が科される	より4回から5回程 試験は実施しない。 るので必ず提出のこ	∠が必要か等、様々た 程度の講義がある。記 その代わり各担当者 こと。一回でも未提出 夏レポートなどに記載	所の中で専門用語 分の最後の講義 おがあると評価さ	をはじめと に必ず、各 れないので	こして分か 講師より ご注意する	からないことは積極的に質問するこ)課題レポートあるいは簡単な試験 ること。なお、質問については各講
注意点			3, 300 to 3/CE-pine			7376 - 137		
授業計	画							
		週				週ごとの致	別接日煙	
				L程・品質等について	ア その 1			工程・品質について認識する.
				<u>E程・品質等について</u> E程・品質等について				工程・品質について認識する. 工程・品質について認識する.
				<u>E程・品質等について</u> E程・品質等について				工程・品質について認識する. 工程・品質について認識する.
				<u>E程・品質等について</u>		<u> </u>		工程・品質について認識する。
	1stQ		電気自動車について 1000円		C->BINCE ISCH			て認識する.
			電気自動車について 電気自動車について					て認識する.
			電気自動車についる				-	て認識する.
		8週	<u> </u>	<u>C </u>		10,444		Children > W.
前期			電気自動車について			電気自動車	車につい	て認識する.
ן/ענינ				<u> </u>	 て その1			ける品質保証について認識する.
				する品質保証について				ける品質保証について認識する.
				する品質保証について				ける品質保証について認識する.
	2ndQ			する品質保証について				ける品質保証について認識する.
	21140) つからバイトを使った			バイト作	りからバイトを使った加工についる
		15週	コウ付けバイト作り sの2)からバイトを使った	か工について	1		りからバイトを使った加工について
		16週						
		I [コウ付けバイト作り	つからバイトを使った	き加工について	ロウ付けん	バイト作	りからバイトを使った加工についる
		170	その3			認識する.	US 2 L 11	
		2週 [コウ付けバイト作り の課題・演習	つからバイトを使った	こ加工について	ロウ付け <i>/</i> 認識する.		りからバイトを使った加工につい

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わり について その1

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わりについて その2

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わり について その3

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わり についての課題・演習

研削加工について その1

研削加工について その2

3週

4週

5週

6週 7週

8週

9週

3rdQ

4thQ

後期

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わりについて認識する.

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わりについて認識する.

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わりについて認識する.

設計プロセス,設計者と知的財産(特許)との関わりについて認識する.

研削加工について認識する.

研削加工について認識する.

10週	研削加工について その3	研削加工について認識する.
11週	研削加工についての課題・演習	研削加工について認識する.
12週	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について その1	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について認識する .
13週	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について その2	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について認識する .
14週	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について その3	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について認識する
15週	精密鋳造品の流れとレイアウト改善についての課題・ 演習	精密鋳造品の流れとレイアウト改善について認識する
16週		

	アカリキュ		内容と到達		70十一 かり	松光油
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週前1,前2,前
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	即1,則4,則3,前4,前9,11,則前前9,前11,前12,前13,前12,前13,後後後後,後11,後後後後,後113,後後後後,後113,後後113,後後後113,後後114,後114,
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	前1,前2,前3,前6,前前6,前前5,前6,前11,前12,前13,前12,前13,前13,被2,被2,前13,前13,被2,被2,被2,被2,被2,被2,被2,12,被2,13,位12,被11,
分野横断的能力	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向性	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前前10,前11,前11,前11,前11,前11,前11,前11,前13,後44,後4,後後,後後,在10,後後後後後後後,在10,後後,在12,後後,在12,後人。11,後後
		自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かってくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	1	前1,前2,前3前4,前前前前6,前前前前110,前前11,前前112,前前12,前前13,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後		
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	1	前1,前2前3,前4,前前5,前前6,前前11,前11,前112,前114,前113,後2,被44,被46,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後

	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認 識している。	1	前1,前4,前2,前3,前的前1,前4,前前前前前113,前2,前前前前前113,前2,前2,後後後,後後,後後,後後,在13,在14,在13,在14,在13,在14,在13,在14,在14,在14,在15,在14,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在14,在15,在15,在15,在15,在15,在15,在15,在15,在15,在15,
	これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前前6,前前11,前5,前前前前11,前13,前13,前13,前13,前前前11,前15,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後11,後2,後13,後14,後15
	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	1	前1,前4,前2,前5,前的6,前前前前前113,前前前前113,前2,前前前前113,前2,後後4,後後9,11,後後4,後後411,後後4,後後112,後後13,
	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	1	前1,前2,前2,前1,前4,前1,前4,前前前前113,前前前前113,前2,前前前前113,前2,後後後後113,前2,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後
	企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	1	前1,前2,前 3,前6,前5,前6 5,前6,前10,前10,前前9,前11,前13,前13,前13,前13,前13, 14,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後11,後 7,次後12,後後
	企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己 の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	1	前1,前4,前2前3,前6,前1前4,前1,前1,前1,前前11,前前11,前前11,前前11,前前

				前1.前2 前
	企業	には社会的責任があることを認識している。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前前前前11,前前11,前11,前11,前11,前11,前11,前11,
	企業るか	が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動してい 説明できる。	1	前1,前4,前6,前前11,前6,前前前前前113,前6,前前前113,前62,在113,前前113,前62,在113,在113,前前前前前15,在113,在113,前前前,前前後113,在113,在113,前前後113,在113,在113,前前後113,在113,在113,在113,在113,在113,在113,在113,
	調査の抱	f、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界 2える課題を説明できる。	1	前1,前2,前3,前6,前10,前前11,前2,前前11,前前11,前前11,前前11,前前11,前前
	企業ごと	活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要である を認識している。	1	前1,前2前 3,前6,前1,前9,前前10,前前9前前113,前前113,前前113,前前113,前前15,後後後9,113,在2,40,40。 5,40,40。 7,40,40。 10,40。 11,40 11,40
	社会して	≷人も継続的に成長していくことが求められていることを認識 こいる。	1	前1,前4,前2,前3,前6,前1,前4,前1,前4,前前前11,前前11,前前11,前前11,後後後9,前11,前前15,後後後9,11,後後後9,11,後後後9,11,後後後112,後後113,
	技術とさ	ī者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要 れることを認識している。	1	前1,前2,前 3,前6,前 5,前6,前前 10,前前11,前前 12,前前13, 14,前15, 14,後2,後後 3,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後

				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動 を行った事例を挙げることができる。	1	前1,前2,前3,前4,前前1,前前前11,前前前11,前13,前14,前13,14,前13,後後後後後4,413,4後後9,後113,後後後後後113,後後後後113,後後後後113,後後後後後113,後後13,後14,後15
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように 活用・応用されているかを認識できる。	1	前1,前2,前3前46向前1,前2,前前前前60前1130前1130前1130前1130前1130前1130前113
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	1	前1,前2,前3前4,前前前前前前前前前前前前前前前113,5 7前前前前前12,前前前前14,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後的11,後後後後後間12,後後後後114,後後後後15
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。	1	前1,前2,前3,前46,前10,前前前前前前前前113,50,前前前前113,50,000,000,000,000,000,000,000,000,000
総	合的な学	総合的な学習ない	総合的な学	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	1	前1,前2,前 1,前4,前前 10,前前 10,前前 10,前前 11,前13, 14,後2,後後 4,後後 4,後後 4,後後 4, 10,後 10,後 10,後 11,後 14,後 11,後 11, 11, 11, 11, 11, 11, 11, 11,
省造	経験と創め思考力	送創 習経験と創 習経験と創 考力 造的思考力 造的思考力	習経験と創造的思考力	課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1	前1,前2,前3,前4,6,前1,前1,前1,前1,5,前1,1,前1,1,前1,1,前1,1,前1,

			提案する設計解が ないことを把握し	要求を満たすもので ている。	ごあるか評価しなけ	ければなら	1	前1前1前15 1,前4前前前15 1,前6前前前11 12,前前前15 14,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後 10,後後後後後後 10,後後後後後 12,後後 12,後後
			 経済的、環境的、 続可能性等に配慮	社会的、倫理的、係 して解決策を提案で	建康と安全、製造可 ごきる。	「能性、持	1	前1,前2,前 3,前6,前前前11,前 5,前前前前11,前前至12,前前前前前11,前前5, 14,被24,後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後後11,後 12,413,113,113,113,113,113,113,113,113,113
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合語	†
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100)
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100)
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	